

都立南多摩中等教育学校 教科シラバス		
5 年	日本史 B	単位数：3 単位
教科書：詳説日本史 B（山川出版社） 副教材：詳説新日本史史料集成（第一学習社），歴史資料館・日本史のライブラリー（とうほう）		

学習目標

本校の地理歴史科の目標

我が国の成り立ちや歴史的過程の生活・文化の特色についての理解と認識を深め，国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

第 5 学年の目標

わが国の原始・古代から近世の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け，現代の諸課題に着目して考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

学習方法

- (1) 授業で扱う歴史的事象を，大きな歴史の中で確認する。
- (2) その歴史的事象の説明を大まかに理解する。
- (3) その歴史的事象の背景や原因，理由や経過，結果や意義についての疑問をもつ。
- (4) 上記の疑問についての検証を多角的におこない，解決を図る。
- (5) この時間内に学習した事項を，演習問題等で徹底して復習する。

評価の観点・方法

以下の 4 観点に基づき，生徒一人一人の学習状況を單元ごとに評価をします。

観点① 歴史的事象の 関心・意欲・態度	歴史の事象や課題について関心をもち、意欲的に探究しようとしている。				
観点② 歴史的な思考 ・判断・表現	歴史の事象や課題について、その背景や原因、問題点を論理的にまとめ、発表しようとしている。				
観点③ 資料活用 の技能	資料や文献を多面的な角度から分析しようとしている。				
観点④ 歴史的事象に ついての知識・理解	歴史の事象や課題について、その特色や意義を知り、相互の関連を理解し、その知識を体系化し、活用する。				
	評価の方法\観点	①	②	③	④
	学習態度の観察	○	○	○	
	課題などへの取り組みと提出物	◎		◎	○
	授業内テスト	○			
	定期テスト		◎	○	◎

学習内容

	具体的な学習到達目標	学習内容／教材	特記事項・他
1 学 期	・旧石器時代・縄文時代・弥生時代の違い、我が国の成立過程が理解できる。 ・律令制度の内容と意義が理解できる。 ・律令体制の変質過程＝王朝国家体制への変化が理解できる。 ・摂関政治の仕組みが理解できる。 ・中世の最初の政権形態である院政が理解できる。	1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳と大和政権 4. 飛鳥の朝廷・律令国家への道 5. 平城京の時代と天平文化（わ） 6. 平安王朝の形成 7. 摂関政治と国風文化 1. 院政と平氏の台頭 ／教科書・史料集・図録とプリント	
2 学 期	・武士の発生と成長過程が理解できる。・初めての武家政権である鎌倉幕府の枠組み、その象徴である御成敗式目の内容と意義が理解できる。 ・鎌倉新仏教を中心とした文化が理解できる。 ・鎌倉幕府の衰退の原因と室町幕府の成立過程が理解できる。 ・南北朝時代のなかでの守護大名の成長が理解できる。	2. 鎌倉幕府の成立と武士の社会 3. 蒙古襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化 5. 室町幕府の成立 6. 幕府の衰退と庶民の台頭 ／教科書・史料集・図録とプリント	
3 学 期	・室町文化の特徴や具体的な文化の実態が理解できる。 ・戦国大名登場の意義が理解できる。 ・織豊政権の成立過程とその革新性が理解できる。 ・近世最初の文化としての桃山文化の特徴や性格が理解できる。 ・江戸幕府の成立過程、幕藩体制の枠組みが理解できる。 ・安定期の為政者たちのめざしたもの、その中で農業・商業が発展しどのようなシステムが成立したかが理解できる。	7. 室町文化 8. 戦国大名の登場 9. 織豊政権 10. 桃山文化 1. 幕藩体制の成立 2. 幕藩社会の構造 3. 幕政の安定 4. 経済の発展 5. 元禄文化 ／教科書・史料集・図録とプリント	

学習のアドバイス

○歴史的事象と現代の世界を関連させて考えること。

→ 世界の歴史を学ぶことは、我々が生きているこの現代の社会を理解することに直結する。

→ 皆さんがこれから、現代の世界でどう生きていくかということを考えていく大きなヒントになる。

○授業で扱った歴史的事象に関連する書籍を読んだり、映画を観たり、博物館に行くこと。

→ 関連する地域や時代に興味・関心が出てきて、自ら課題をもって学びたくなる。

→ 思わぬ気づきや発見があって、学習意欲が高まるとともに、歴史的理解が一層深まる。

○新聞やインターネットで時事問題にできるだけ触れ、世の中の出来事に興味・関心をもつこと。

→ 時事問題の様々な構成要素に、授業で扱ったことや関連事項が意外に多いことに気付く。

→ 現代からの視点、過去からの視点、未来からの視点、など多角的なものの見方・考え方が身に付く。